

SS先生の恩師

2022. 4. 13

先月の話である。以前、私が小学校の校長をしていた学校で一緒に勤務した先生から連絡があった。ちょうどその先生に送りたい資料があったので、一筆したためて資料とともに封をして机の上に置いておいた。

たまたまSS先生が校長室にやってきた。すると、封筒の宛名に反応した。自分から余計なことなど言わない彼にしては珍しいことである。封筒に書かれた人物を知っていたのである。話を聞くと、こういうことだった。

その人物は、何とSS先生の小学校5・6年生のときの担任の先生だったのである。これはびっくりである。彼曰く、「あの頃から先生になることを意識し始めました」というではないか。うれしいではないか。私が以前お世話になった先生が、SS先生の人生に影響を与えていたとは。その先生の近況などをSS先生に伝えた。

その後である。封をしたセロテープを丁寧にはがし、したためた一筆をもう一度書き直した。もちろん、上記のエピソードを加えた。そして、また丁寧にセロテープを貼り直した。

数日後、その先生から電話がきた。私の文面を見て鳥肌が立ったそうである。私はSS先生のこの1年間の活躍の様子、成長の様子などを伝えた。恩師であるその先生もうれしそうだった。結局、長電話になってしまった。

これはいったいどのような縁なのであろう。SS先生があのタイミングで恩師の名前を目にしなれば、何も起こらないで終わったはずである。そう考えると、偶然ではなく必然なのであろう。その恩師には言った。「あなたの人柄とSS先生の人柄が引き合わせてくれたと思う」二人とも謙虚かつ誠実である。

その恩師はというと、4月から新任教頭として活躍中である。いや悪戦苦闘中であろう。新任教頭にとっての4月と5月は、それまでに経験したことがない状態が続く。健康に気を配りながら、何とか乗り切ってほしい。資料とともに謙虚・誠実・実行・寛容・感謝という言葉を贈った。まだまだその意味はわからないだろう。そんな余裕はないだろう。だが、彼ならば、そのうちにこれらの言葉の意味や重みに気づくと信じている。

2年目の教員となったSS先生はというと、毎日の活躍が楽しみである。この時期は、先生方の持ち味や方針が明確に出るときである。それだけ、1年の中でも重要な期間である。SS先生が、どんな味を出してくれるのか。期待しながら見守っていきたい。

そして、6月になったら恩師に電話をしようと思う。「元気でやっているか。もう大丈夫だ。正念場は越えたぞ。これからはあなたの持ち味を出していくことだ」こんなことを言うだろうか。もちろん教え子の2年目についても報告したい。